

琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 毒ガス
問題 第2次移送

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43781

(3) 大河原么使の訪沖

毒ガス
撤去の
手配
等

極 秘
無 期 限
部 内 号

大臣秘書官

副外務大臣

大河原公使

米保長
大河原公使の訪沖

(毒ガス関係)

46.3.8

アメリカ駐米米務一課

大河原駐米公使は 3月4日及び5日の両

日ラバト高等学務官の招致に別訪沖したと

ころ滞在中同高等学務官及び行政官屋良

主席等と毒ガス撤去問題、軍管務者解雇問

題等について話し合ったが、右要旨次の通り。

米米務一課

GA-5

外務省

1. 毒ガス撤去問題

(1) ラバト高等学務官

今回は屋良主席がやり気十分であること

期待をもっている。池原、登川がうるさい。
学校は同じ

は米側も十分承知している。GRIが野水

とラバト、13号線から東野比へ出る案(米側
東野519)

案のIIa)でラバトと東野比は一番長い。道

路補修はそれ程の作業ではなく、陸軍のEngineer

Corpsを協力せよ。工期は3ヶ月位である

ように。全費20万ドルを何とかならぬ側で負担

に欲しい。米政府としては、ラバトと東野比

GA-6

3
事のために最大限の努力をいたし、~~3/4~~ 3/4 以上

以上の至善の負担は困難である。

屋敷主席は3月8日と10日にはGRIの
方針を決定したと云っているが、GRIの発表と

同一時期に、日中側が20万ドルの経費を支拂う
決定
との発表と一致を認めるならば、米側とし

ては appreciate するべきである。

(2) Hayes 少将

米1回の搬出の経験で安全性についての
自信を一段深めている。我々としては米1回分の経路
で何ら心配をいと思っており、本土から米側

4
の専門家はこれを assure している。米側として

は8月、9月の台風季節前に完了したいと強く
希望しているが、GRIがそれを許さず、

いつまで心配している。米側では移送に
ついては、~~6/1~~ ~~6/1~~ を予定しており、搬出完了は
5月17日か20日と見ている。

(3) 高瀬大使

屋敷主席も腹を合た水でいるので安心している。
GRIの決定は3月8日と10日より決まると
かしている。何れにしても屋敷主席が腹を合
た水でいるので、何れにしても提案している。

ラハトと屋表との関係もよくわかってる。

言葉の問題で相互理解の面ではまだ欠けた

ところはあるが、自分は^院自分^は ~~自信~~ ^{自信} ~~を~~ ^を 十分話さ通
~~分母の~~ ~~自信~~ ~~を~~ ~~持っている~~
ているので自信をもっている。

(4) 屋表主席

建設局長と立法院各委員長に根拠

を述べているので今度どうもやれると思う。

立法院は^野行政が案を出さるのを^野受けか

んと云っているが、自分は、民意を代表する立

法院が案を出さるのを責任を回避する気遣

であると反論している。

各案についての merit, demerit について検討

せざるべき方針で対処^{おし。} ~~して~~ 障害がある

案の削除にゆくと GRZ の市案が最も

desirable 方針であるとして納得させる方向

である。この根拠が終了すれば、各委員長は反

対と対するべきである。立法院が決めれば

民主団体も反対は存するかもしれない。関係

市町村^長にも自分から話し理解を求め

た方がいい、何故かこれとやらはやら

かを筋道を立てて話せばいいからと受けること

思う。何れにしても共通一歩は根拠^は

終了。

米側は搬出開始時期を5月と云っている

が工事は5月にはかかる。実費工事73月位

コンテナにつき

2台程度は知らず。先回はトレー5台

1日

であったが、今回は7台、コンテナは5台

の往復

7往復と記

7回と承知している。1日最大49台に上る

輸送が行われることになり、右によれば45日

内で残余の全量が搬出される計算とす。

始

7月分より45日間で終了する事が出来

るのである。

(5) J-N 政治顧問。

屋敷への入るスケジュールは遅すぎる。米

側としては5月中旬船積開始、7月中旬輸

送完了という考え方で、心配である。屋敷

主席もこれを承知しているはずだ。(公使側、同

主席は使務も承知している。称名と

1-112は

は承知している。これは右スケジュールの公使に

知らせておくと、公使より、公使より

反として、GRに對し pressure をかけるこ

とに予ては目に見えており、至路に及ばず

主席が所屬 説得に及ぶという現状では

得策ではない。強く、指示をすべきである。

9.

また同公便判かりに半割が二よる発表と

考らるゝであらば、発表のイミダ、内容等につ

て日本政府と事前に十分協議を欲し旨

申し入れておいた。